

# 施肥設計の見直しによる資材費低減対策の推進

(生産体制・技術確立支援)

【平成31年度予算概算決定額 92 (163) 百万円の内数】

## <対策のポイント>

農業者が**土壌診断の結果に基づく施肥設計とその配合手法を習得**し、低コスト施肥体系を実現できる取組を支援することにより、農業競争力を強化するとともに、**都道府県による施肥基準の見直し**を後押しします。

## <政策目標>

省力化・低コスト施肥技術の導入を各地で実現

## <事業の内容>

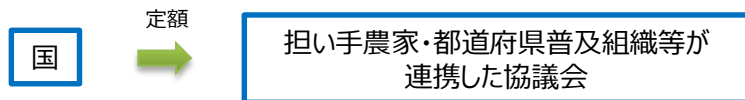
### 1. 低コスト施肥技術の研修

- 地域の中心となる経営体（担い手）や都道府県の普及指導員等の指導者が、**施肥設計や肥料配合に関する知識・技術を習得するための研修会の開催を支援**します。

### 2. 新たな施肥体系の確立

- 地域の栽培暦等に基づき指定された銘柄の肥料を施用する施肥体系から、ほ場ごとの土壌診断の結果に基づき、安価な汎用肥料や単肥を利用して適量施肥する施肥体系への転換を促すため、**新たな施肥体系の確立に向けた検討会の開催や実証試験、農業者・指導者向けマニュアルの作成・配布を支援**します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 背景

栽培暦に従って、地域銘柄肥料に依存した体系

肥料の高コスト構造の要因

肥料の銘柄集約

ICTの普及

土壌診断の結果に基づき、安価な汎用肥料に単肥を組み合わせることで、低コストでの適量施肥が可能

リモートセンシングで生育状況を把握しながら単肥を局所散布することで、更にきめ細かな施肥管理

### 課題への取組



肥料を配合したいが、どうすればよいただろう（誰に聞けばよいただろう？）  
配合のばらつきによる収量・品質への影響が不安！

(事業実施主体) 担い手農家・都道府県普及組織等が連携した協議会

普及指導員等による施肥設計・肥料配合の実地研修

オーダーメイドBB肥料等の活用による資材費低減効果の検証と分析

農業者・指導者向けマニュアルの作成・配布

**低コスト施肥体系の実現、肥料銘柄の集約の後押し**